

令和 6 年度研究推進計画

学 校 名 江田島市立鹿川小学校

学校長名 河野 諭恵

1 研究主題、研究内容・方法等について

(1) 研究主題

児童の「学びに向かう力」を高める算数科の授業づくり
～「自己決定」と「振り返り」の充実～

(2) 主題設定の理由

本校は、昨年度まで、広島県教育委員会より「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業」の指定を受け、『自ら課題を見つけ、探究し続ける児童の育成～生活・総合的な学習の時間における、児童主体の学習計画の作成と振り返りの充実～』という研究主題のもと、生活科・総合的な学習の時間を中心にプロジェクト型学習（PBL）をベースとした『探究的な学び』を通して、「非認知的能力（自主性や協調性等）」の育成に取り組んだ。また、同時に「小学校低学年段階からの学ぶ喜びサポート校事業」の指定を受け、主に低学年での「認知的能力」の向上に向けた取組を行ってきた。それぞれの能力の定義は以下のとおりである。

「非認知的能力」＝テストでは数値化されない能力

- ・「自己肯定感」、「やる気」、「粘り強さ」、「自制心」、「行動力」、「協調性」、「失敗から学ぶ力」、「創造力」等

「認知的能力」＝教科学力の基盤となる能力・テストで数値化されやすい能力

- ・「聞く力」「話す力」「読む力」「書く力」「計算する力」「推論する力」等
- ⇒各教科等の「知識・技能」「思考・判断・表現」を支える原初的な能力。

「非認知的能力」については、特に「次時への見通しをもつ力」「協働的な態度」「粘り強さ」「課題設定力」についての意識向上が見られた。児童にとって身近な課題を解決していく単元づくりや、振り返りの時間の確保、友達と共に学ぶ時間の設定が効果的であった。

「認知的能力」については、低学年において、『MIM（多層指導法）』を活用した。語彙や数、読みなどに関するプリントを使い、児童のつまづきを見つけ、分析し、日々の指導改善に生かすことで、児童の学習に対する抵抗感の減少が見られ、徐々に学力向上に繋がっている。

一方で、児童自身の学習に向かう意識が高まりつつあることがアンケート結果から分かったが、教師の見取りから、依然として教師の指示がなければ動かなかったり、困った時には固まって動けなくなってしまうたりする、学習に対して受動的な姿が多く見られる。また、児童自身の「自己有用感（自己に対する肯定的な感情・『人の役に立っている』という感覚）」が高まっていないという傾向もあり、「学びに向かう力」の向上が不可欠であるといえる。

この「自己有用感」「学びに向かう力」は、「非認知的能力」の一種であり、「認知的能力」の向上を下支えする大切な能力である。本校の長年の課題である「学力向上」を解消していくためには、個別の実態を適切に把握し、実態に応じた課題を適切に解決することを通して、「自己

有用感」や「学びに向かう力」を高めていくことが大切になってくる。また、学習に対して抵抗感を抱いている児童の多くは、下学年の基礎的・基本的な能力が身に付いておらず、校内でのフォローアップ体制の充実が急がれる。

このような実態から、本年度は次のことに取り組む。一つ目は、算数科を中心に「自己決定」する場を、一時間の授業の中で意識的に設定することで、個別最適な学びを充実させ、児童の「自己有用感」や「学びに向かう力」の向上に取り組んでいくこと、二つ目は、「振り返り」の時間の確保だけでなく、内容の充実を図ることである。また、昨年度に一定の成果が見られた学習面でのつまずき解消に向けての「MIM（多層指導法）」や下学年の内容に関する問題演習などへの組織的な取組は継続して行うこととする。

(3) 研究仮説

◎ 算数科を中心として、「自己決定」や「振り返り」を取り入れた学習活動を設定する授業改善に取り組むことで、児童が自ら学びに向かう力が高まり児童の学力の向上につながるであろう。

(4) 研究内容

1 「自己決定」に関する取組

○「自己決定」する場を授業の中で意識的に設定する。

- ① 児童が自分で学び方や考え方を選んだと自覚し、達成できたことに自己有用感をもつことができるよう、授業の中で、課題を解決するための学び方や考え方に関する自己決定をする機会を設定する。
- ② 児童が学び方や考え方を自ら選択する習慣を身に付けることができるよう、環境を整備する。
- ③ 効果的な支援の方法について校内で研修をもち、交流する。

2 「振り返り」に関する取組

○「振り返り」の内容の充実を図る。

- ① 算数科を中心に、本時の学習の理解の深化や、次時の学習への見通しをもつ力、課題設定力を高めるために、振り返りの時間を確保する。
- ② 振り返りの内容の充実に向け、振り返りの視点等についての研修を行う。

2 検証計画

研究内容	検証方法	指標・達成目標	
		非認知的能力	認知的能力
「自己決定」に関する取組	・校内独自のアンケートを全学年に実施。(5月・1月の計2回)	・アンケート項目の肯定的評価の割合：+10%以上	・算数の単元テストの正答率(知識・技能(80%)、思考・判断(80%))
「振り返り」に関する取組	・校内独自のアンケートを全学年に実施。(5月・1月の計2回)	・アンケート項目の肯定的評価の割合：+10%以上	

3 校内研修計画

研修内容		日時	講師招聘	備考
理論研修	今年度の研究について	4/17 (水)		
	指導案検討 (3年)	5/29 (水)		
	第1回校内授業研究 (3年)	6/21 (金)	○ (西部)	
	指導案検討 (1年・た3)	8/2 (金)		
	指導案検討 (5年・た2)	8/27 (火)		
	第2回校内授業研究 (1年)	9/19 (木)		
	指導案検討 (た1)	9/25 (水)		※校長、教頭、新井、水場で実施
	第3回校内授業研究 (た1・2・3)	10/9 (水)		
	第4回校内授業研究 (5年)	10/30 (水)		
	指導案検討 (6年)	11/6 (水)		
	第5回校内授業研究 (6年)	11/27 (水)	○ (西部)	中堅研を兼ねる
	指導案検討 (2年・4年)	12/26 (木)		
	第6回校内授業研究 (2年)	1/24 (金)		
	第7回校内授業研究 (4年)	2/12 (水)		
	今年度の研究のまとめ	2/26 (水)		
	次年度に向けて	3/5 (水)		
その他、専門研修から得た学びの共有	未定		必要に応じて	

		1回目	2回目	備考
調査まとめ	児童アンケート (計2回)	5/7 (火) ~10 (金)	1/27 (月) ~31 (金)	※報告書の提出期限によっては、2回目を早めに実施する。
	教員アンケート (計2回)			
	算数の単元テストの到達度 (知識・技能、思考・判断・表現)	4~7月、9~12月、1~2月		※各学期の単元テストを学期末に集計する。 (3学期は2月まで)
	研究のまとめ	2/26 (水)		

4 研究公開の予定について

公開予定日	予定なし
タイプ	普及型・提案型・報告型
公開範囲	
公開内容等	

※ タイプについては、校内研修ハンドブック (広島県教育委員会 平成15年3月) を参照。